

No	1.代替案の比較評価と選定、勉強会のとりまとめについて	2.沼津高架PIプロジェクト全体を通しての感想	3.PIの開始前と現在において、PIプロジェクトや沼津のまちづくりに対する考え方や心境等に変化があったか。また、変化があった場合、どのような変化があったか。
1		<p>■PI勉強会最終日に行われた参加者の発表会、限られた時間での発表でしたので思いを語れず誠に残念でした。その残念だった部分について又アンケートの回答に替えて申し上げます。</p> <p>私は沼津駅周辺の高架事業に伴い貨物駅が当地区へ移転することに対して設けられた三区JR貨物駅対策協議会の立ち上げ(以前)から今日に至るまで貨物駅に関する事に携わってきていますので、その経緯は理解しているつもりです。このことからこのPIが最終回を迎えることを一つの区切りに意見を申し上げたいと思います。</p> <p>■先ず 事業の早期推進を切に要望します。</p> <p>7月25日の静岡新聞記事、また25日以降の記事にもありましたが、「沼津駅周辺の高架問題で、県はPIが今秋終了した後「PIの推奨案を知事に報告、知事はそれを判断材料に早急に方向付けし、遅くとも年内に県としての方向性を示す方針を明らかにした」とありました。</p> <p>この記事を見て、遅さに失した感はありますが、行政として又政治家としての理性、道義上の責務においても市民を裏切らない、一日も早い結論を示して頂きたいことを期待したいと思いました。</p> <p>然し、去る10月12日(土)の新聞ではその「年内に方向性を示す方針」を覆し、判断の時期にはこだわらないと修正しています。この事は、誰もが恩ったことであろうと思いますが、誠に残念なことであり、大変失礼な表現ではありますが、何をもて遊んでいるのか憤りを感じた次第であります。</p> <p>高架事業の都市計画決定 平成15年1月 ..10年9ヶ月 25.10.17現在 新貨物駅に対する事業認可 平成16年9月 ..9年 25.10.17現在</p> <p>この長い時間と税金の無駄遣いをして今に至っていますが、もうこれ以上の時間の浪費と税金の無駄遣いは許せないし、絶対止めて頂きたいことを強く要望したいと思います。</p> <p>そもそもこのPIは知事の、貨物駅取得用地の「強制収用はしない」の発言から、自ら政治判断をすることが出来ず、各分野10名の専門家による素晴らしい先生方をメンバーとした「有識者会議」にその判断を委ねた訳です。</p> <p>敢えて申し上げるなら、有識者のメンバーは静々たる方々で交通工学2名・観光・公共政策・都市計画・交通経済・交通工学・地域計画・物流・建築都市計画とそれぞれ専門の10名の有識者から構成された方々でした。</p> <p>その有識者会議の結論、報告はご承知の通りであります。</p> <p>そして、又このPI委員会も事務局の指導のもと、6名の素晴らしい各分野の先生方に導いて頂いて、合意形成を図ってきたのですが、どの様な意見をまとめ知事に報告するのかが分かりませんが、知事は有識者会議の意見・PI委員会の意見をどの様に評価し、考え、判断するのでしょうか？</p> <p>これを延ばす様なことがあれば、諸先生方には大変侮辱した、失礼なことにならないでしょうか？</p> <p>その中で私が12回のPIに参加させて頂きまして誠に残念に思うことは、反対である方々は始めから反対ありきでどうどう巡り、私にとりましては大変無駄な時間を費やした思いが強く残りました。反対する方々にとりましては合意形成の思いは全く無く反対が全てだと思いました。</p>	
2	<p>知事に先送りばかりしないで欲しいと言いたい。今までやったことは単なる時間稼ぎではないと思いたい。</p>	<p>沼津高架のPIなのに、原地区のまちづくりまで範囲を広げてしまっ、今後、期待を持った原地区の皆さんの意見をどのように活かしていくのか不安です。</p>	<p>高架に賛成・反対の人々が歩み寄りを見せることは難しいと感じました。</p> <p>ただし、原地区に沼津の迷惑施設ばかり押し付けているという意見には、高架反対に力を注ぐ皆さんの心情も理解できるようになりました。</p>
3	<p>よかったと思います。</p>	<p>・川勝知事の見識の高さがあってこそそのPIプロジェクトだったと思います。</p> <p>・川勝知事の決断で最終とせず、沼津市長発議の沼津市民住民投票と財政(現状と20年間の収支予測)状況開示を提案いたします。</p>	<p>・PI導入の時期が、例外的・変則的で事後になった点は、大変だったと思います。</p> <p>・県の職員に対する信頼感はMax高まりました。</p> <p>・代議制(議員選挙)や首長選挙のプロセスの限界を補完する形で、PI手法はもっととり入れられるべきと確信しました。</p>

No	1.代替案の比較評価と選定、勉強会のとりまとめについて	2.沼津高架PIプロジェクト全体を通しての感想	3.PIの開始前と現在において、PIプロジェクトや沼津のまちづくりに対する考え方や心境等に変化があったか。 また、変化があった場合、どのような変化があったか。
4	<p>① 代替案の比較評価と選定 代替案7つを内容から4つに絞ったことは今後の進め方がしやすくなったのではないのでしょうか。内容的には、A「貨物駅を移転して鉄道を高架化する案」 B「鉄道高架化をしないで橋上駅・南北自由通路の実現をする案」の二つに大別されると思います。 ただし、貨物駅を原地区へ移転する案は、今までのいきさつから事実上不可能であることから、近傍駅への移転が実現可能かどうか関係者と折衝する必要があります。この場合、新たな貨物駅用地買収の事業費増が見込まれます。また、JR貨物が承諾するような交渉が必要であり簡単には進まないとおもいます。 実現性、可能性、経済性、時間的な条件を勘案すると「橋上駅・南北自由通路」+「三ツ目ガード改修」の計画案が一番現実的であると考えます。「橋上駅・南北自由通路」と「三ツ目ガード改修」の二つは、沼津市民の誰もが望んでいる大事なポイントであり、沼津市が大きく変わるキーワードであると思います。 川勝知事への「報告書」(提言書)は、今までのPIプロジェクトで話し合われたこと、参加者の切実な意見や思いを十分考慮し取り入れた内容にしていきたいと思います。 今回のPIプロジェクトに参加しなかった沼津市に対して、県は事業主体者としての権威と威厳と誠実さをもって沼津市に対処していただきたいと思います。それだけの責任の間われる大きな事業です。</p> <p>② 勉強会のとりまとめについて ファシリテーターが「勉強会のとりまとめ」をすることは、権限外の行為であり、今回「今後の地域づくりの進め方について」という内容に修正し、ポイントを4点のみに書き換えてよかったと思います。この4点の中でも大事なことは3項の「市財政へ配慮し、効率的な事業とすべき」と4項の「県と沼津市は今後とも市民参加によるまちづくりを進めるべき」の二つであると思います。</p>	<p>① 私は、8年前から「鉄道高架事業について」調べ勉強し、沼津市市議会、県の事業仕分け、有識者会議の傍聴し、全国の橋上駅の実情、大学の専門の先生方の話を聞き問題点と解決策を模索してきました。特に、沼津市の担当者は、地権者の意見、私たちの疑問点に耳を傾けようとしてきませんでした。</p> <p>② こうした経過を経る中で、川勝知事が「PIプロジェクト計画」を実施したことは、全国的にも極めて珍しい取り組みであり行政のあるべき姿であると評価しています。</p> <p>③ 県土木事務所の職員の皆さんが、市民の考えや意見を把握するために、いろいろと工夫されていたこと、そして「報告書」(推奨案)づくりのために精力的に取り組んでくれたことに感謝しています。</p> <p>④ 県事務局の皆さんが「高架推進」という立場に身を置きながら、我々「高架見直しグループ」の意見も尊重し、資料を作成したり、実地見学を実現したりしてくれたことにより、半信半疑で参加していましたが、事務局に対しての信頼感を持つようになってきました。わたしの本当の話相手は事務局の方々でした。</p> <p>⑤ 私たち「見直しグループ」は、「反対派」ではありません。私たちは「市民の立場に立った提案者」です。そのことは、このPIプロジェクトを通じて事務局の皆さんにも理解していただけたのではないのでしょうか。</p> <p>◎ 長い間大変お世話になりました。今後ともよろしく願いいたします。</p>	
5	代替案は身の丈に合ったものに近づけたのではないかと思います。	<p>・PIプロジェクトで取り上げるべき基本問題について、検討がなされなかったため、プロジェクトでまとめた内容は、高架問題の解決に対して、力の無いものになってしまった。</p> <p>・沼津市の活性化に、どう結びつくのか。根拠の無いまま推移した。</p> <p>・大きな容器を用意します。これには、こんなにたくさんのもが入ります、という話に終始していて、入るものがどのように用意されるのか、どこから持って来るのか、という検討が無かった。</p>	<p>・原地区では、前向きなものが出て来たように思うが、貨物駅は迷惑設備という考え方は、変えられなかった。</p> <p>・沼津のまちづくりに対しては、具体的道筋にまとめられず、活性化への期待を生むところまでには至らなかった。</p>
6	代替案2がベストだと思います。高架事業を行い、駅前に都市機能を整備するためのまとまった土地を生み出すことが、将来の沼津の街づくり必要な事だと確信しました	原駅周辺の開発に関しては、やはり自然災害に関する視点を持って慎重に判断すべき事だと思います。県の職員の皆様、ファシリテーターの皆様、本当にお疲れ様でした。大変なお仕事をやりとげた事に敬意を表します。	開始前は高架事業の是非にはっきりと答えを持ち合わせていなかったが、PIを通して高架事業の必要性をはっきりと確信することができた。但し、鉄道高架後の街づくりをしっかりとマネジメントしてほしい。
7	難しいまとめだったと思いますが、参加者の意見をくんでいただいた案だと思います。	県職員・ファシリテーターのみなさま、沼津のために長い間関わっていただきありがとうございました。感謝します。	様々な立場や意見を持っている人も、ほとんどは郷土沼津に対する熱い思いがあることを気づかせていただきました。

No	1.代替案の比較評価と選定、勉強会のとりまとめについて	2.沼津高架PIプロジェクト全体を通しての感想	3.PIの開始前と現在において、PIプロジェクトや沼津のまちづくりに対する考え方や心境等に変化があったか。 また、変化があった場合、どのような変化があったか。
8	<p>1) 比較評価について</p> <p>① 代替案 2、4・・・機能集積、公共空間の確保の見込み、交通改善の見込みなど何れをとっても実に甘い(一般人にとって)見通しの数字や意味不明の言葉が羅列されている。 ★将に静岡空港の二の舞となる可能性大 ★公の文書にはあまり横文字を使うべきではないと思うが・・・</p> <p>② 代替案 9、10・・・「計画変更手続きに時間が掛かる」とか「貨物駅として買収に応じた地権者の理解が必要となる」など、鉄道高架事業を見直し早急に橋上駅をという案を何としてでもつぶそうと感ずる。</p> <p>2) 選定について・・・ 4案に絞ったことは評価する</p> <p>3) 勉強会とりまとめについて・・・時間がなかったこともあり、あの程度でやむを得なかったのかなと考える。</p>	<p>1) 非常に残念だったことは、最後に4つに絞り込んだ代替案それぞれについて、推進派と見直し派が徹底的に議論を戦わすことなく、単に意見の羅列に終わってしまったこと。</p> <p>2) 沼津市が市長はじめ担当部局が参加せず、残念であった。 ★この程度の推進派グループであることが判明した今、高架事業を早急に見直すべきだと思う。</p> <p>3) 沼津市は市財政が県内の水準と比較して良好だと主張するが、市民サービスの面で他市町に見劣りする事業について要望しても「金がない。ないものねだりをするな」の一点張りである。市行政として本来やるべきことをやらず、ひたすら鉄道高架事業のためにだけ予算を確保して、沼津市財政の健全性を主張するのは本末転倒だと言わざるを得ない。 これが沼津市財政の実態であり、人口減少の推移がすべてを物語っていると言えよう。</p>	<p>1) 2020年の東京オリンピック開催決定を機に、早急に都市計画変更に着手し、自由通路を併設した魅力ある橋上駅を完成させたい。静岡・浜松両駅と同じような金太郎あめの発想を排し、一味違う個性ある市中心部を速やかに整備し、観光客の伊豆半島や富士山への玄関口にしたいと願う気持ちが一層強まった。</p> <p>2) 鉄道高架事業の是非を問う住民投票を実施して決着をつけられ、市民の納得も得られよう。</p>
9			<p>参加させていただき、ありがとうございました。資料を読むのが大変でしたが、参加できてよかったですと思います。 代替案10案で沼津市には十分です。少しでも早く、少しでも安価に南北自由通路ができることを祈っています。</p>
10	<p>矢張り、比較評価で大事だと思いますのは、事業を進めるにはまずお金が第一に必要となりますが、県・市の財政の余力があるか、ないかが重要です。比較評価に対して重点ポイントとして検討してください。</p>	<p>本プロジェクトの当事者である沼津市、JR東海の出席がなく、議論が当事者抜きで進められたことが不満であり、残念でした。</p>	<p>沼津市、県にしても、沼津市のランドデザインが無いまちに、箱物だけ作れば良くなるという感覚を行政は持っているのではないか。もっと頭を柔らかくして、ソフト面から沼津まちづくりを市民と共に進めて行けたら良いと思っています。</p>